

第5回 第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員 議事録

1. 日 時 令和4年 9月7日(水) 13:30～:15:30

2. 場 所 リモート及び加賀市役所別館305会議室

3. 出席者

委 員 5名

(委員長) 坂 本 英 之

(委 員) 佐 藤 留 美

田 畑 智 日

辻 寛 子

山田 真名美

オブザーバー 3名

稲 田 純 一

坂 本 誠 一

本 田 芳 宏

(代理 大聖寺土木事務所 地域調整担当次長 宇 野 義 和)

事 務 局 6名

建設部長

加賀市建設部都市計画課

4. 次 第

1. 開 会

2. 副市長あいさつ

3. 議事

・前回からの見直し

・パブリックコメントについて

4. その他

・今後の予定

5. 閉 会

5. 傍聴者 一般：なし

報道：北國新聞社

6. 議事内容

◆事務局

本日は、ご多用のところお集まりいただきありがとうございます。

只今より、第5回第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会を開会いたします。
司会進行を務めさせていただきます蔵と申します。

ここで、委員総数5名全員にご出席をいただき、「第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会要綱」第5条第2項の会議成立要件を満たしていることをご報告いたします。

本日は、オブザーバーの本田芳宏様の代理で、大聖寺土木事務所地域調整担当次長の宇野義和様にご出席いただいております。

開会にあたりまして、副市長 深村富士雄がご挨拶申し上げます。

◆深村副市長

第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会の皆様、本日はご多用のところ本委員会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

さて、全国各地で記録的な豪雨により、大きな災害が発生しており、お隣の小松市におきましても、梯川の氾濫により大きな被害を受け、悲惨な状況となっています。
水辺は、良好な景観や動植物に住処を提供する場として、心を癒してくれる空間となりますが、その一方で、暴風雨になると、一転して私たちの生命や財産を脅かすものに変貌します。

本ガーデンシティ構想推進プランは、観光客をはじめとする、来訪者をもてなす水と緑のシティプロモーションとして策定していますが、今回の見直しでは、防災に寄与するグリーンインフラの要素を取り入れ、より魅力的な都市づくりに寄与する計画になることを期待しています。

また、2024年春に予定している北陸新幹線金沢敦賀間開業に向け、加賀温泉駅前や温泉地などにおいて、これぞ加賀市のガーデンシティと感じていただける水と緑を整備し、日本国内だけでなく世界へ向けて発信していきたいと考えております。

皆様方には、ガーデンシティ推進の市民活動が促進され、また訪れる人にも活動を促し、誰もが心身ともに満たされる推進プランとなるよう、各々の視点からご意見、アドバイスを賜りますようお願い申し上げ、私からのご挨拶といたします。

◆事務局

ここで、事前に送付しているファイルをご確認願います。

まず、本日の会議次第、第5回検討委員会資料、以上となります。不足の方はお申し出ください。

それでは、検討委員会要綱に基づき、これよりの議事進行を坂本委員長にお願いいたします。

◆坂本委員長

第5回の最後の委員会ということで、総まとめの回となりますが、皆様には忌憚なくご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

議事1 前回からの見直し

◆坂本委員長

それでは、（1）前回からの見直しについて、事務局より説明してください。

◆事務局
(説明)

◆坂本委員長
ご質問等ございますか。

◆山田委員
推進体制について、基本方針の1～5の項目には入らず、根幹として推進体制の構築を行っていくという認識でよろしいでしょうか。

◆事務局
その認識で間違いございません。

◆山田委員
推進体制のフェーズ1からフェーズ3まで構築するのに何年くらいかかると想定しているのでしょうか。

◆事務局
目安としては5年を目指していますが、一番重要なフェーズ2の進捗により決まってくると思います。

◆山田委員
フェーズ1からフェーズ2までは確実に5年で進めていって、可能であればフェーズ3までいくのに5年という認識でよろしいでしょうか。

◆事務局
はい。その通りです。

◆山田委員
そうすると、組織づくりに5年かかる中で、他の5つの基本方針を進めていくとなると、誰がやっていくのでしょうか。基本方針の項目については行政がやっていくということでしょうか。

◆事務局
ハード的な部分は行政が主導でやっていくことになると思います。ソフト的なところは、モデルプロジェクト的に進めるところと、行政が進めるところがあると思います。モデルプロジェクトの初期は、モデルプロジェクト自体も少ないと思いますが、最終的には中間支援組織に移行することを目指します。そこは行政と民間がお互いに棲み分けをしながら進めていくことになると思います。

◆山田委員
行政の方や一部の方が負担されているガーデンシティの取り組みを、中間支援組織を作り、移行させていくことは難しいことだと思いますが、とても大切なことだと思います。推進体制を構築し、次の担い手をしっかり育てることを基本目標の中に組み込んでいただきたいと思います。

それが5年後あるかどうか、ガーデンシティの成果が発揮されたかどうかを示す一つの指標となると思います。また、フェーズ1からフェーズ2に移行するまでに5年間というのは少し長すぎるのではないかという印象です。

◆坂本委員長

フェーズ2から3へのセットアップは、組織づくりの肝になると思います。これに関しては具体的に動き出さないとわからない部分ではありますが、ぜひフェーズ1、2の初期のあたりで、市の方できちんと体制づくりに当たっていただきたいと思います。

◆田畑委員

23ページのビジョンマップについてですが、加賀市の絵だということはわかりますが、漠然としており、何を言いたいのかよくわかりませんでした。これについてはいかがでしょうか。

◆事務局

ご指摘にありましたビジョンマップのコンセプトとしては、市民と観光客が水と緑の中で一緒に活動し成長していくことを描いていますが、加賀市を図化しただけと捉えられかねないことは理解しました。これについては修正を検討したいと思います。

◆坂本委員長

イメージですので、個人的な見解も出てくると思いますが、アイデアがあれば教えていただきたいです。

◆田畑委員

絵だけでなく、その横に言葉を添えるだけでも、わかりやすいものになると思います。山代にはスマートパークがあるなど、もう少しリストアップするとわかりやすくなり良いと思います。

◆坂本委員長

この点については前回の委員会で佐藤委員からご指摘があったと思いますが、いかがでしょうか。

◆佐藤委員

ビジョンマップは何を目標とし、今後どのように変わっていくかを、見てわかるものでないといけません。市民の出会いと交流が生まれたり、市外の方と交流が生まれたり、そこからまた新たな事業が生まれていく、それがわかるように具体的な内容を表現する必要があります。例えば、竹林で伐採している人が描かれていますが、この絵が何を示しているのか、絵だけでは一般の人はわからないと思います。イラスト、文章及び写真など、もう少し丁寧に説明する必要があると思います。

また、ビジョンマップという名前だけだとわからないので、「加賀市をこんなふうにしていきましょう」というメッセージとともに発信していくことや、概要版のパンフレットを作るなど、市民に期待感を持ってもらえるものでないともったいないと思います。

◆坂本委員長

メインのイラストを説明していくというイメージですか。

◆佐藤委員

今のままだと、何をやっているのかわからないので「自分がこの絵の中にいる」というように自分事にしてもらえよう表現すべきだと思います。

また、基本目標についてですが、前章で出た課題と目標の内容が全くリンクしておらず、次のアクションにつながるようなことが目標として見えてこないため、根本的に見直す必要があると思います。加賀市の素晴らしさを市民とともに見出し、成長させ、伸ばしていくことがこの構想の一番の目標であり、行政が市民の話し合いの場をつくることや、既に活動している方へアドバイスをするなど、サポートすることで、新しいプロジェクトを生み出していくことが必要です。そして、市外の人たちが、加賀市に住みたいと思えるようになることが重要だと思います。加賀市に住んでいることの満足度や、プランに賛同している人は何%か、活動している人は何%か、などを目標にしないといけないと思います。

まずはモデル地区を作って、既に活動している方々と繋がり、そのエリアで対話の会を開き、皆でアクションを決めて、社会実験を行い、フィードバックをしてというのを繰り返すのが良いと思います。そうすることで、コミュニティができていき、市民の満足度が上がっていくと思います。また、そのような明るいまちには外から人が集まるようになります。市外に住んでいても、そのコミュニティに参加できるということが今のツーリズムだと思います。そのためのモデル地区を作って、成功事例を作って横展開していくというイメージがあるとまちの活性化に繋がっていくのではないかと思います。

◆事務局

ビジョンマップは具体的な内容がわかるように写真や文章の追加など今後検討していきたいと思います。

目標は検証するための指標という位置付けがありましたので、規模が小さいといった印象は否めないと思いますが、佐藤委員がおっしゃる通り、市民の満足度の向上などは重要な指標だと思います。ただし、満足度などを指標にするのは難しいと思いますので、目標の設定については考え直したいと思います。

◆佐藤委員

数値については根本的に考え直した方がよいと思います。練馬区では、区民へ緑に関する満足度のアンケートをとり、その満足度を緑の基本計画の目標値としています。満足度は、決して目標値にできないものではないと思います。計画エリアの中で市民との対話のミーティングを重ねていき、話を聞くということを積み重ねていかないと何も変わらないと思います。厳しいことを申し上げますが、参加者や利用者が増えてその先どうなるのかが全く見えないと思います。加賀市に行った際、こんなに素晴らしい都市はないと感じました。そして、素晴らしい方々もたくさんいらっしゃいます。行政は行政として市民をサポートしていけば、まちを発展させることができますので、今までのやり方を踏襲するのではなく、しっかりと検討してもらえたらよいと思います。

中間支援組織についてですが、これらのスキームに関しては、しっかりと勉強会を開いて進めた方がよいと思います。これらのことは必ず国外・国内に事例があります。市長は、シンガポールのガーデンシティを参考にされたとおっしゃっていましたので、シンガポールでは、どのような体制でどのような運営を行い、どのようなネットワークを作って、どう進めたのかを調べ、勉強した方がよいと思います。中間支援組織の種になっているような方々と一緒にそれらの活動を見て、考えていくことが必要ではないでしょうか。以前、山田委員も運営については、そういったリソースをしっかりと割いていかないといけないとおっしゃっていましたが、

私も同意見です。世界中で中間支援組織が必要で、それをどう支えていくかということも検討、実践されています。それらの事例を学んでいくための予算をつけ、勉強会を重ねていくと、今回作成したプランが実際に生きてくると思います。

◆坂本委員長

根本的な問題提起がありました。指標の設定に関しても見直しが必要なのではないかということでした。中間支援組織の取り組みの研究を進め、また、モデル地区を設定し成功事例を作りながらやっていくということが重要だということだと思います。

◆事務局

佐藤委員のご意見についても反映できるかどうか検討したいと思います。

◆坂本委員長

全体の内容を深めるためには時間的な制約があります。OODAループの部分でもありましたように、改善をしていくことを前提に、一旦承認をいただければと思います。

◆佐藤委員

ビジョンマップは完璧なものを目指さなくていいので、これがどういうものかわかるような説明が入るだけでよいと思います。今おっしゃっていただいたOODAループを取り入れていただいたことはとてもよいことだと思います。市民の方々と対話を重ね、現場の状況から客観的な情報を収集し、官民連携のチームを作って、どのように対策を検討し、官民一緒にやっていくのかということを決め、社会実験を実行し、繰り返すことが重要だと思います。しかし、現在のプラン案はそれを具体的に表すものになっていないと思います。これを加賀市で具体的にどのように行うのかを考える必要があるので、それを付け加えていただきたいと思います。それをこの後の5年間で進めていけば、加賀市の成果になると思います。

◆坂本委員長

そういった点も踏まえて最終版にアップデートしていけるとよいと思います。目標の設定自体も悪くはないと思いますが、市民の方々のアンケート調査なども加わっていくとよりよいものになると思います。予算がなくてもできることだと思いますので、検討していただきたいと思います。

◆佐藤委員

実際にモデルエリアを決めて、OODAを進めることを約束していただきたいと思います。暗中模索の状態だと思いますが、いろんな事例を調べ、皆で検証、実行するということはある程度決めていただきたいと思います。

◆事務局

まず市民等との対話は円卓会議の中で行うことを考えていました。モデルプロジェクトの検証を並行して行い、検証する中身は対話の中で随時決めていきたいと思います。調べていく中で様々な人と対話を重ねながら決めていくのは重要だと思いますので、検討していききたいと思います。

◆佐藤委員

モデルプロジェクトが先に決まっているのではなく、まず話し合いをして、地域の皆さんから上がってきた意見等を吸い上げて、「DECIDE」のところでモデルプロジェクトにしていくというのが正しい進め方です。最初から行政が「モデルプロジェクトやりましょう！」といっても誰もついてこないです。その考え方が逆であるということをまず認識していただきたいと思います。

◆坂本委員長

その辺りは体制に関わる部分ですので大変かと思いますが、市民の内発性を担保しながら進めていくとよいと思いました。

◆辻委員

手探りで進めるのではなく、まず佐藤委員が関わられている練馬区の現場にいてみるべきなのではないでしょうか。実際に現場を見て、現場の声を聞き、新しい発見をしてきた上で、会議をするということが一番早道の方法なのではないかと思います。そのためにも、予算をつけることが大事だと思います。自分たちで動くための予算を確保することは無駄のないお金の使い方だと思います。現場で思いつくこともあるでしょうから、佐藤委員の練馬区の現場をしっかり見ていくことが必要だと思います。

◆坂本委員長

先進地への視察であれば、市民会議などの場で予算をとっていけたらよいのではないかと思います。

◆事務局

まずは話し合いなどを実行し、モデルプロジェクトを決めていきたいと我々も考えています。そして、視察等につきましては、次年度以降の検討の一つに入れていきたいと思っています。

◆山田委員

ビジョンマップのイラストのテイスト自体は、温かみがあるデザインとなっているので、これに対してキャプションを入れるだけで良いものになると思います。市民の方々との対話の際に付箋を貼ってもらうなど、これをうまく活用してもらえるとよいと思いました。例えば、ここに記載のある活動はまだ30個くらいだと思いますが、付箋を貼って行って、100、1000に増え、それらをまとめた冊子を作れば、それはまさに市民の皆さんから出てきた水と緑の使い方になると思います。観光地が載っているものとは違った加賀市でしかできない生の情報が載った素晴らしい冊子になるのではないかと思います。

また、いかに市民の皆さんに加賀市の緑の素晴らしさを理解してもらいつつ、管理費が危機的な状況にあるということを理解いただき、市民の皆さんと目線を合わせてやっていくということが重要だと思います。ハードが決まっていて、それから市民が使い方を考えるというのは非常に難しいことだと思います。どんなハードが求められていて、どんな暮らしを地域の皆さんは営んでいきたいのか、そういった声をたくさん入れて、ハードづくりを進めていけばよいと思います。

目標について、インスタグラム等のSNSによく載せられている場が欲しいと思いますが、それは結果であって、そのために場を作るのは違うのではないかと思います。この景観に何が必要

なのかを市民と対話して作り上げた結果としての場が、基本方針4の景観づくりであって欲しいと思います。

そして、地域経済の起点となる場所づくりの電動レンタサイクル利用者数についても、加賀市は広いので、自転車ですべて市内全ては周遊できず、あくまで観光目的のものでしかないです。その利用者数＝ガーデンシティの盛り上がりとは違うのではないかと思います。例えば、「緑を生かしたツーリズムプログラムが市民の手から何件生まれたか」、「いくら寄付金が集まったか」など数値的な表し方もできるので、市民を後から参画させるという感覚ではなく、市民の手からプロジェクトを作っていくという方向にしていいただければよいと思います。

◆坂本委員長

私たちが目指している目標に即した指標に修正いただきたいと思います。市民と話しながらか決めていくということが重要だと思います。

◆山田委員

地域の皆で決めることが理想ですが、全員が緑に関する知見があるわけではないので、どのような目標を立てたいか、緑に対してどのような考えを持っているのかヒアリングを行い、目標を決めるとよいと思います。一度関わりを持つと、地域の皆さんはそこに執着し、思いをこめてくださると思うので、計画が決まる前にそういうタッチポイントをつくっていくことが大事だと思います。それ自体が目標でもよいかもしれません。

◆佐藤委員

現地視察へ行ってみるのはよいと思いますが、様々な情報の取り方があると思います。こちらはいつでもウェルカムなので、ついでに寄っていただだけでもよいと思います。

市民企画で様々なことを行い、そこからネットワークが広がって、皆が楽しくなっていくというのはこれまで活動を行ってきて実感しています。山田委員も先ほどおっしゃっていましたが、ビジョンマップのデザインは私も良いと思います。もう少しフォローアップすればさらに良いものになると思います。このビジョンマップを生かして、ワークショップをやって、それを集めてガイドブックになることは素晴らしいことだと思います。市民の方々はまちが好きだと思うので、地域愛をどんどん醸成していき、共有していくことが大事だと思います。

そもそも、楽しくないと誰もやらないと思います。自分の考えを言えること、アイデアを出せること、それを共感しあって、実際にやってみる、そこに外の人がやってきて、いいねと言ってもらえ、また自分たちもやってみたいと思ってもらえることで「楽しい」がつくられていくと思います。人の輪ができていくとエリアのことが色々と気になり出して、今度はあそこで何かやってみようという意見が生まれてくると思います。皆でまちを成長させていくための場をつくるということが、今回の計画の肝なのではないかなと思います。

議事2 パブリックコメントについて

◆坂本委員長

続いて、議題2のパブリックコメントについて、事務局から説明をお願いします。

◆事務局

(説明)

◆坂本委員長

これまでの議論を反映した上で、パブリックコメントにあげていくことになると思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

◆山田委員

パブリックコメントの資料としては、メールでいただいているガーデンシティ構想推進プラン案と同じものを使用されるのでしょうか。

◆事務局

その通りです。

◆山田委員

パブリックコメントについて、市のホームページの他、市のFacebookやメールマガジンでお伝えするとよりリーチするのではないかと思います。

◆佐藤委員

加賀市では通常パブリックコメントについて、どれくらい反響があるのでしょうか。

◆事務局

パブリックコメントの反応は薄い傾向にあるため、公園などの施設にも資料の設置を行い、Facebookなども活用し、周知に努めたいと思います。

◆佐藤委員

おそらく若い方はパブリックコメントの情報までアクセスできないと思いますので、市の政策に何か意見するというムーブメントも起こりにくいと思います。保育園や学校などの教育機関にアプローチして、加賀市でこういうことをやりますということを、若い方にも届くように周知をしていただけるとよいのではないかと思います。今はInstagramやTiktokで情報を収集するようになっていっているので、色々な工夫をしていただければよいと思います。

◆坂本委員長

本格的な周知は次年度以降にはなりますが、プロジェクトの周知をこのパブコメがすでに担っているという考えで進めていただきたいと思います。

その他いかがでしょうか。ないようでしたら、議事はこれで一旦終了となりますがよろしいでしょうか。今後の予定に関して事務局からお願いいたします。

◆事務局

今後の予定としましては、いただいたご意見を元に修正を行う予定です。スケジュールの関係上、時間的に制約がある状況です。委員長の方からご説明いただけますでしょうか。

◆坂本委員長

皆さんご覧のように、パブリックコメントを行い、その後市議会への報告、そして最後に公表となります。今回が委員会最終回となりますが、先ほどの活発な議論を反映して資料の修正が必要かと思います。パブリックコメントに出す最終版につきましては、委員会を開く時間的

な余裕がないため、委員長に一任という形をとり、2回目の修正に関しても私に一任していただけないかと思っております。これを踏まえ、ご意見があればお願いいたします。

◆各委員

(異議なし)

◆坂本委員長

それでは、「今後の予定」の議題に関してもこれで終わりたいと思います。皆様、たくさんのご意見をありがとうございました。議論を実際に皆様と顔を合わせながらできたら良かったと常々思っていました。画面越しでしかお会いできていない方もいて、とても残念ではありますが、委員会を終了させていただきます。また、これから益々重要だと思います。スマートシティだけではなく、ガーデンシティも加賀市を周りへ発信する一つの起爆剤になることを願っています。今後、お会いできる機会があるかもしれません。その時はまたよろしくお願いいたします。

事務局に司会をお返ししたいと思います。

◆事務局

これにて閉会とさせていただきます。

お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございました。